

コークス炉増設事業に係る環境影響評価方法書に対する環境の
保全の見地からの意見

1 調査の手法について

(1) 水質について

環境影響評価方法書（以下「方法書」という。）において、事業の施設供用に伴う水質の富栄養化及び有害物質の状況の環境影響評価を行う指標が、適切な予測を行うに当たり十分な指標ではないので、富栄養化と有害物質の状況については、学識経験者等の助言及び指導を受け、適切な手法で調査すること。

(2) 植物、動物について

方法書において、陸域の植物の調査範囲を事業実施区域内としているが、事業実施区域外にも影響を及ぼすことが懸念されるため、響埋立地の事業実施区域周辺も調査範囲に加えること。

また、動物の重要な種の調査については、方法書に記載されている種だけでなく学識経験者等の助言及び指導を受け適切な種を選定すること。

2 評価の方法について

(1) 大気質について

方法書において、硫黄酸化物、窒素酸化物、浮遊粒子状物質、ベンゼン等の濃度の状況を把握する手法として、文献その他の資料及び現地調査による情報収集とあるが、情報の収集に当たっては、可能な限り幅広い資料を参照して、最新の情報を収集すること。

特に、降下ばいじんについては、調査地点を新たに設定し、予測評価を行うこと。

また、近隣事業所の近年に環境影響評価を行った結果について調査し、予測評価するに当たり考慮すること。

(2) 温室効果ガスについて

温室効果ガスの排出量の予測については、北九州市の温室効果ガス削減計画を踏まえ、予測評価をすること。